

# 町政を問う！ 一般質問

12月定例会では11人の議員が理事者に対し、29項目の一般質問を行いました。なお、質問と答弁は要約しています。

## 地域コミュニケーションシヨンの場がない状況



桜井崇裕議員

今求められているのは、地域の人々が気軽に集まり話し合うための場づくりではないだろうか。町長が町民との対話の中で感じる地域の課題と、町政執行方針を推進するため、どのような政策を行っていくのかを伺う。

阿部町長

町内会や農事組合の役員の手減少、各老人クラブの入会者の減少、高齢者の通院や買い物など、車を運転しない・で

きない人の生活の確保が課題だと感じている。

また、子どもの数の減少で中学校の部活動を他校と合同で行っている状況があり、送迎などで親の負担が大きくなっている。

課題を解決し、新たな課題を把握するためにも、町民が主役のまちづくり、町民との対話を重視したまちづくりを進めていきたい。

## 旧熊牛福祉館・保育所

桜井崇裕 議員

旧熊牛公民館・保育所の解体の時期はいつか。解体後の活用計画や地域からの要望はあるのか。

阿部町長

今後2〜3年の間に解体したい。解体後の活用計画については、現段階では明確な方向付けはしていないが、地域の振興につながる有効な活用方法を考えたい。

地域からの要望はないが、活用計画を検討する際には地域と協議して取り組んでいきたい。

## 町職員の地域活動と今後の町民との一体的取り組み



原 紀夫議員

①町長が講師を務める職員研修が行われたが、そ

の後、前向きな変化は見られているのか。

②顕著な活動が認められた職員に表彰や特別昇給等で報いる方策は取れないか。

③まちづくり懇談会や新年交礼会は、多くの町民を迎え入れるよう見直すべきではないか。

阿部町長

①まちづくりに対する思いは少なからず職員に伝わったと認識しており、住民目線に立った政策立案や公共サービスの提供に取り組みもの期待している。

②特別休暇や特別昇給については公務員の特権になつてはいけないものであり、報償として実施することは難しい。職員の業務に対する評

価は、現在行っている人事評価制度において適切に評価していく。

③まちづくり懇談会は、これまでの枠組みにとらわれず、町民が気軽に話せるよう少しずつでも形を変えて開催していきたい。

新年交礼会は、現状よりも幅広い分野で、男性・女性それぞれ多くの方が参加していただける実施方法を模索していきたい。

## 合同納骨塚設置の現状

原 紀夫 議員

平成26年12月の定例会において合同納骨塚の必要性を訴え、その後も数回一般質問を行い、4年

が経過した。

既存の納骨堂を再整備し、早い時期の供用開始を目指すとして寺院等とも協議したようであるが、その後、予算付けもなく推移している。

2年後に設置する予定があるとの話を聞いたが実際はどうなのか。

阿部町長

合同納骨塚の設置に向けては、担当職員が他市町を視察後、その報告内容を基に協議を行った。以前に検討した清水霊園内にある既存納骨堂の再整備ではなく、新たに合同納骨塚を設けることとし、平成31年度（2019年度）に基本的事項を整理・調整して、2020年度秋までに設置し、運用を開始したい。

## 安心・安全な歩道の確保を



奥秋康子議員

①一般道熊牛御影線の十勝川に架かる橋に歩道を設置するよう要請を求めた経緯があるが、動きが見えない。その後の整備計画の進捗状況について伺う。

②道道の歩道がひび割れし、その間から雑草が勢いよく伸びている。歩行者の安全確保のため、雑草の除去を関係機関に要請してほしいかがかか。

阿部町長

①北海道へ橋梁架替整備の早期着工を要望してきた。平成31年度（2019年度）から用地測量や用地買収に着手し、2027年頃に供用を開始する予定であるが、歩道は歩行者の通行が少なく

## 高齢者の地方移住

奥秋康子 議員

通学路でないため設置しないと聞いている。②道路管理者である北海道に要請する。

元気な高齢者の地方移住を促すことで首都圏の人口集中の緩和と地方の活性化を目指す「日本版CCRC」構想に関する取り組みについて、道内では60を超える自治体で推進する意向があるとしている。

十勝管内では既に上士幌町が取り組みを開始しており、本町も取り組むべきと考えるかがかか。

阿部町長

現在の総合戦略を策定する際に日本版CCRC事業の検討をした経緯はあるが、中高年者を含め本町への移住相談や受入れは既に行っており、積極的な事業としての取り

組みは見送った。

今後においては、国や道も推進している事業であることや、人口減対策としての移住定住など、私の公約とも近いので、次期の総合戦略策定までに十分検討していきたい。

## 元号変更の準備



佐藤幸一議員

5月1日に平成から新元号に改められるが、申請書類やシステム変更などの対応について伺う。

阿部町長

新元号が公表となった時点で作業を開始し、事務に支障がないよう準備を進める。

公文書等においては、元号とともに西暦を併記することで統一しており、混乱がないよう配慮していく。

## 十勝清水駅 跨線橋対策

佐藤幸一 議員

今年度から開始した清水帯広間のバスの一般利用は、朝夕1往復であり、十分な対策とは言えない。JRとの協議内容も含め、今後の十勝清水駅跨線橋対策についてどのよう

に考えているか。

阿部町長

駅のバリアフリー化は、町が財源のすべてを負担しないと解決しない状況であり、実現は難しい。現在運行している清水帯広線バスは、芽室や帯広方面の医療機関を経由しており、当面はこのような支援を続けるとともに、十勝圏活性化推進期成会などを通じて、国へ

JR北海道の鉄道施設の老朽更新や路線維持に対する新たな支援制度を設けるよう要望していきたい。

## 小学校の英語教育義務化

佐藤幸一 議員

2020年の小学校英語教育義務化完全実施に向けて、4月から小学3・4年生で英語が必修化された。コミュニケーション能力の向上が期待される一方、他の教科の時間削減を懸念する声もある。

本町における小学校の授業時間の確保と実態について伺う。

三澤教育長

これまでも6時間授業の日を増やすなど、学校と相談しながら順次対応してきた。今後においても学校行事でしか経験できないものを大切にしながら、子どもたちの健やかな成長にとってのよい方向性が望ましいか熟議を重ねつつ、学習指導要領に沿った適切な教育課程の編成に努めたい。

## 清水高等学校の支援

佐藤幸一議員

先の定例会において前教育長から、「今後も清水高等学校への支援策の充実を図り、4間口確保に向けて積極的に取り組んでいきたい」との答弁があったが、新年度の支援策について伺う。

三澤教育長

これまでの支援策を充実・強化していくとともに、教育委員会の若手職員を中心としたプロジェクトチームを新たに設置し、「魅力ある清水高校」に向けて、意見やアイデアを提案してもらっている。

また、遠方から通学する生徒とその保護者から、昼食の確保に苦慮しているとの声もあることから、手伝えることがあれば積極的に協力していきたい。